

# 中核施設工事始まる

去る2月14日(火)、和田地域中核施設の起工式(地鎮祭)が、石井裕南房総市長をはじめ、



四方のお祓いをする神官



鎮入れをする石井裕市長

和田地域居住議員、行政連絡員代表、建設に携わる業者、市関係職員等、約40名が参加し行われました。そして、翌週から工事に係わる環境の整備が行われ、2月末現在では、下の写真のような状況になっています。竣工は、7月末を予定しています。

その間、支所・コミセンへの出入りが規制されることとなります。「わだつらう下ライプイン」側からの出入りは出来ません。「元公民館」側の出入り口のみが使用されることとなります。

また、夜間のコミセンへの出入りは現在と同じで、東側のドアをご利用下さい。

## 支所の呼び方も変わります

4月から現在の和田支所は、「和田地域センター(出張所)」という名称に変更されます。

業務内容は、市広報10月号でお知らせしたものと変わりありませんが、人数や配置等が多少変動することもあると考えられます。詳しくは、市からのお知らせ等をご覧ください。



アスファルトをはがすユンボ



コミセン西側に設置された囲い

# 集落で集まり網づくり作業

和田地域には、宍居の他地域と比べて「網づくり」という行事が多く残っています。



神唐集落の網作りの様子(2月5日)



神唐集落の網作りの様子(2月5日)

「網づくり」行事は、(内側のページに書かせて頂きました)が主に「集落の災厄除け」のために古くから行われているものです。昔は、和田地域の殆どの集落で行われていたと思われませんが、現在、「網づくり」行事が行われている地区は、紫区、仁我浦区、小川区根方、駒場集落、中三原



南三原小「網づくり」授業の様子(2月10日)

区寺谷、神唐集落、下三原区金井集落、沼区となっています。写真は、中三原区神唐集落の様子です。役員を中心に、当日出られる人達が集まって、みんなで網づくりを行います。これは、網づくりの技術を若い世代に伝えていこうとするもので、作業の間には世代間の交流も図られます。また、神唐集落の有志が、毎年南三原小の「網づくり」の授業に講師として参加しています。

和田の他地区の「網づくり」の作品は、内側のページを参照下さい。

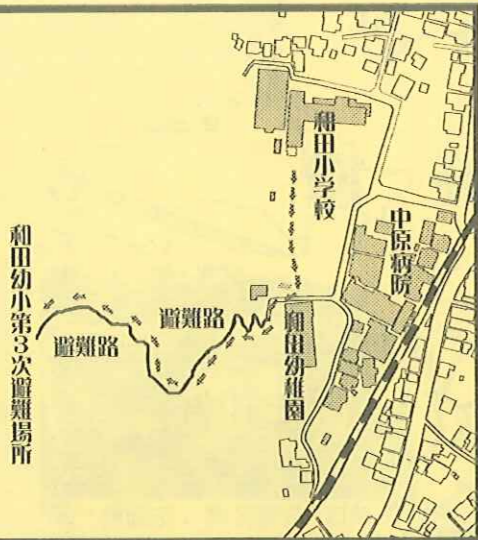
# 和幼小第3次避難路を整備

伝えています。

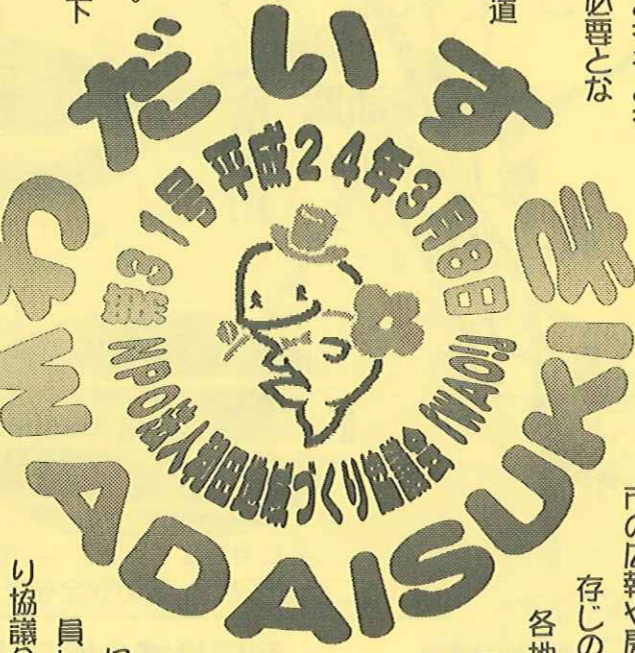
和幼小学校の海拔は17.0m、幼稚園は15.5mです(和幼小小調べ)。東北地方太平洋沖地震の時のような津波が襲ってきた場合、両方とも子ども達の安全が保証できないため、更に高い場所への避難が必要となります。それが、和幼小の第3次避難場所です。

それは、左の地図の通りです。和幼小の間の、細い赤道(あかやうじ)を、山の上まで上っていくこととなります。記事でも紹介されましたが、その経路には、子ども達が避難する時に、「狭くてやや危険と思われる場所」「雨で地面がぬかるていると、滑りやすい場所」等があり、災害時の心理下ではより危険度が増すため、「それを少しでも改善したい」という願いが元になっています。作業は、おおよそ左のような内容です。

そして第1回目の作業は、2月11日(土)に行われました。



- 1 岩盤等の階段を削って、ステップを広くし、上り下りをし易くする
- 2 路肩が危険な場所は、土のうや杭で補強して、滑り落ちたりしないようにする
- 3 斜面が滑り易い場所は、丸太等を使って階段を作り安全に上り下りできるようにする



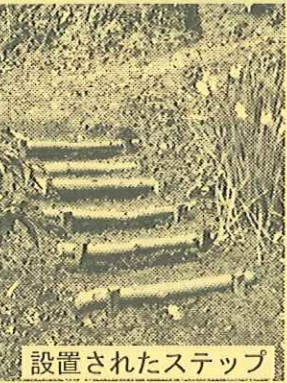
# 地域づくり支援員の雇用者が変わります

のために順延になっています。この後の作業については、安心安全部会内や和田幼小との相談を進めていくこととなります。

市の広報や房日新聞等の募集記事でもご存じのことと思いますが、市内の各地域づくり協議会の「支援員」の雇用者が変わります。

これまでは、国の「緊急雇用対策事業」の一環として、「NPO法人 千葉自然学校」が支援員を雇用し、各地域づくり協議会に派遣してきましましたが、その事業が終わり、4月からは新たに南房総市が直接「臨時職員」として雇用し、各地域づくり協議会に配置します。

再募集の上、試験を行いますので、支援員の配置替え等が行われることをご案内いたします。新しい支援員につきましても、4月にお知らせいたします。



設置されたステップ



路肩を補強する土のう



避難路の整備作業をする『WAO!』安心安全部会員

発行者 南房総市・NPO法人和田地域づくり協議会「WAO!」  
 連絡先 南房総市役所和支所内 地域づくり支援員  
 電話 支援員 0470-47-5955  
 支所 0470-47-3111  
 E-mail qq4u9y89n@royal.ocn.ne.jp

# 和田地域の綱つり地図



**訂正** 先月号の写真で「長者川橋の綱つり」の「綱」を「花園区」作と紹介しましたが、「柴区」作の誤りでした。訂正してお詫び致します。



柴区 花園区境 (長者川橋)

## 花園

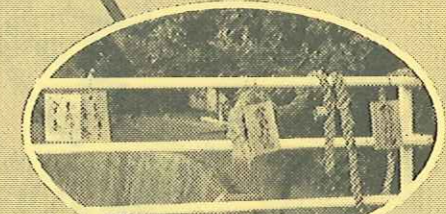


柴区 花園区境 (花園橋)

柴区の綱つりの「綱」は、「竜」です。竜は、入ってきようとする災いを威嚇するようにつり、集落の外側に頭を向けてつられています。



柴区 仁我浦区境 (蟹田橋)



仁我浦区 仲岡さん宅脇

※ 仁我浦区では、区的安全を祈って区内に綱がつかれます。

## 和田地域の綱つり

この「綱つり」と呼ばれる行事は、古く江戸時代から行われているそうです。各集落の境に「蛇(竜)」や「わらし(ぞうり)」「さんだわら」等を吊すことで、「ここから災いや

疫病等が入ってこないように」と願うものです。古来、疫病神は道を通ってやって来ると考えられていたので、村の出入り口にあたる道の脇につられたというわけです。

各「綱(作品)」には、次のような意味があるそうです。「この集落には、こんな大蛇(竜)がいるぞ」「この集落には、こんな大きなわらしを履く大男がいるぞ」。また、未完成なものを吊したりサイコ口を吊したりするのは、「この集落は、このような半端な物しか作れない者達が住んでいる」「この集落は、バクチが盛んで、皆お金が無い」⇒「来ても無駄だよ」。

この行事を、和田地域では「綱つり」と呼んでいますが、「道切り」と呼んでいる処もあります。また「道切り」を災厄除けでなく五穀豊穡を願って行う処もあります。またその多くは、正月から2月にかけて行われているようです。

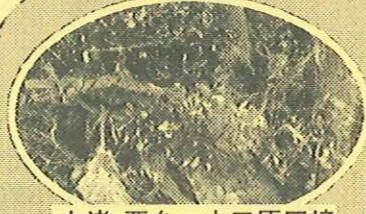
「綱つり」行事は、多くの地域で過疎化、高齢化が進むに従って、次第に消えつつあります。しかし、和田地域には比較的この行事が残っており、まだ多くの集落の境につられています。この地域色豊かな行事を、次の世代が出来るだけ引き継ぎ、存続させていきたいものです。



白渚区 東台・浜台境



仁我浦区 和田小体育館下



白渚 西台・中三原区境

沼区 岩糸境 (沼蓮寺下)

沼区 松田区境 (沼橋)